# 特別支援教室キラリへよくいただくご質問

**Ｑ１．どんな児童が対象ですか？**

Ａ１．知的な発達には遅れがなく、通常の学級の授業におおむね参加できているが、
・勉強面で得意、不得意の差が大きい。（例：計算はできるが、文章題だと難しい）
・相手の気持ちを理解すること、自分の感じたことを言葉で表現するのが苦手。
・急な予定変更や、初めての場所、初めてのものごとが苦手。こだわりが強い。
・集中力が長く続かない反面、夢中になると切り替えが難しい。
などの、発達のアンバランスや情緒面、社会性に課題のあるお子さんが対象です。

**Ｑ２．利用するために必要な手続きを教えてください。**

Ａ２．まずは、在籍学級の担任の先生にご相談ください。お子さんの課題や目標について学校と保護者で共有していきます。相談の結果、キラリの利用が適していると判断された場合は、教室の見学や体験（８時間程度）、巡回指導教員や心理職による授業観察等を経たのち、教育委員会が開く判定審査会で利用の可否を審議します。審査会では判断の資料として、お子さんの発達検査の結果をご提出いただきます。また、審議の結果、利用が認められない場合もあります。あらかじめご了承ください。

**Ｑ３．申込みから、実際に指導を受けるまで、どのくらいの期間がかかりますか？**

Ａ３．キラリでの体験修了後、指導の目標や巡回指導日などをご家庭や学校間で相談の上、入級申請の書類を学校を通じて教育委員会にご提出いただきます。手続きの期間は個別対応でもあり一概に「何日」とは言えませんが、お子さんが授業を抜けてキラリで受ける巡回指導ですので、丁寧に進めていきます。

**Ｑ４．原則の指導期間とはどういった考え方ですか？**

Ａ４．キラリでの指導開始にあたっては、お子さんの障害特性そのものの改善・克服を指導目標として設定するのではなく、障害から生じる困難さによる「つまずき」の軽減や「学習の仕方」等を身に付けるために必要なことを目標として設定します。指導の定期的な振り返りでは、困難を完全に解消したかどうかではなく、お子さんが自己の特性を理解して対応の仕方を学び、前向きに学習に取組むことができるようになったかなど、在籍学級で感じていたつまずきが軽減したかという視点で振り返ります。そのため、振り返りを行う節目の期間を「原則の指導期間」と定めています。指導期間は原則として入室した学年の終わりまでとしています。年度の途中に入室した場合は、入室した年度の翌年度末までとします。なお、キラリの指導を終了することは、お子さんが必要とする特別な教育的支援が一切なくなるということではなく、在籍学級における支援に移行するということになります。

**Ｑ５．キラリを利用することで、友だちや他の保護者からどう見られるかが心配です。**

Ａ５．どんなお子さんでも得意なこともあれば、苦手なところもあります。少人数や個別で学ぶほうが、より自信を持って個性を発揮できる、力を伸ばせるタイプのお子さんもいて、その特性に合わせた学びの環境の一つが「キラリ」です。どの小学校にも特別支援教室が必要となっている背景や、特別支援教育の推進について、これからもすべての保護者・児童・教員の理解啓発を進めていきます。

# 立川市立第二小学校
# 特別支援教室 キラリ
# ご利用のしおり

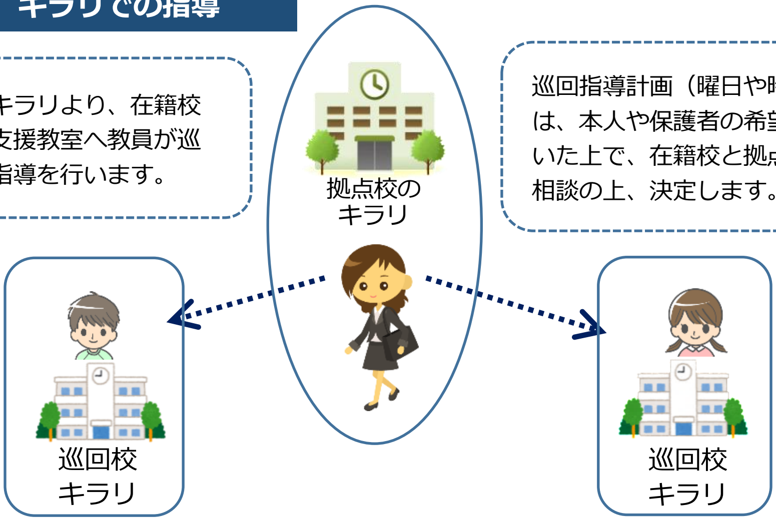
**拠点校二小**
**巡回校五小・南砂小**

　生活の中で、様々な困難さを感じている児童が、それぞれの課題に向き合い、改善・克服への意欲をもって充実した学校生活を送ることができるよう、『二小キラリ』では、個別指導計画に基づいた丁寧な指導を実施します。

## キラリでの指導

拠点校キラリより、在籍校の特別支援教室へ教員が巡回し、指導を行います。

巡回指導計画（曜日や時間）は、本人や保護者の希望を聞いた上で、在籍校と拠点校で相談の上、決定します。




★巡回指導教員はキラリで指導するほか、他の児童の授業観察や学級担任への助言なども行います。
　キラリ設置校には東京都より、特別支援教室専門員の配置や、臨床発達心理士の巡回もあります。

★キラリでの指導には、原則の指導期間（１年間）があります。
　◇年度初めから入室（指導開始）している場合は、年度末の３月までが原則の指導期間です。
　◇年度途中から入室した場合には、原則の指導期間は、入室した年度の翌年度末までとします。


立川市立第二小学校　☎ 042-523-4438

所在地　立川市曙町 3-23-1

# 特別支援教室キラリでは、こんなことを学びます

・児童一人ひとりの課題や在籍学級での適応状態などを踏まえて、指導目標を設定します。
・指導の内容や児童数、学年などを考慮しながら、個別指導や小集団指導を行います。
・キラリで学んだ内容を担任の先生と共有し、在籍学級での指導や支援に活用します。

## 自立活動

個々の障害による、学習上または生活上の困難を改善したり克服したりすることを目的とする指導です。例えば・・・

**コミュニケーションの指導**
個別、ペア、小集団指導を通して、友だちとより良いコミュニケーションがとれるように指導します。

**自己理解・自己受容の指導**
振り返りの活動を通して、できたこと･できなかったことを理解し、自分で受け入れることができるように指導します。

**人間関係の形成の指導**
ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）を通して、対人関係や集団参加の課題を改善します。

**身体の動き、環境認知の指導**
体幹トレーニングを通して、体づくりの指導や眼球運動、空間認知、環境認知の指導をします。

## 教科的な内容を取り扱う自立活動

いわゆる補習や復習とは違います。一人ひとりの特性によるつまずき、苦手なところに特化した指導です。苦手の原因理解や理解の仕方などを児童と一緒に考えます。

授業への参加が難しい原因
- ■ 状況理解（社会性）
- ■ 見通し　（時間･行動）
- ■ 学習意欲（意味理解･価値づけ）
- ■ 集中力　（刺激）

理解する（分かる）ことが難しい原因
- ■ 認知の偏り
- ■ 学習スタイル
- ■ 複数作業の苦手さ
- ■ 曖昧さの理解
- ■ イメージの弱さ
- ■ 反復学習が必要

**教科的な内容を取り扱う自立活動の例**

・漢字の構成
・言葉の意味を理解するための指導
・物語文全体を視覚的にとらえる指導
・心情理解のための指導
・説明文の内容理解のための指導

・数の概念や計算の仕組み
・文章問題の解釈
・図形問題の視覚的理解
・三角定規･分度器などの用具の使い方
・学習方法の改善指導

## 二小キラリ担当教員

教諭　特別支援教室専門員　巡回相談心理士等

## 二小キラリ指導曜日

| 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 巡回校 | 二小 | 二小<br>五小 | 二小<br>南砂小 | 五小 | 南砂小 |

## キラリが大切にしていること

❁苦手なこと（学習・生活）や課題への対応

⇒自分に合った方法を知り、学級で活用できるようにします。

❁一人一人のよさや得意を伸ばすこと

⇒課題の改善への足がかりとし、学級で活用できるようにします。

❁自己理解力の向上

⇒自分自身の得意や苦手を知ることにより、
意欲や学習、生活の力を高めます。

## 二小キラリへの入室を希望するときは

**＊先ずは、在籍校の担任の先生や特別支援教育コーディネーターの先生にご相談ください。**